

【様式】

令和6年度 学校マネジメントシート（年度当初）

学校名（三重県立伊勢まなび高等学校）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像	○生徒が安心して楽しく学べる学校 ○生徒が学びたい内容を自分のペースに合わせて学べる学校 ○生徒が社会に出て自立できる力を身につけられる学校	
	育みたい生徒像 【グラデュエーション・ポリシー】	○生き生きと楽しく学校生活を送ることができている生徒 ○自ら将来や進路を考え、社会に出て自立できる力や社会生活の基盤となる確かな学力を身につけている生徒
(2)	ありたい教職員像	○生徒のまなびに向かう姿勢を尊重し、すべての生徒がまなびに取り組むための環境を整え、学習意欲を引き出す授業の工夫・改善に努めている教職員 ○通級による指導に必要な知識・スキルを身につけ、生徒一人ひとりの特性や実態に応じた適切な指導・支援を行うことができる教職員 ○キャリア教育の重要性を理解し、生徒が学ぶことと将来とのつながりを見通し、社会的・職業的に自立する力を身につけることができるよう、適切な指導・支援を行うことができる教職員 ○信頼される学校・教職員であるため、教育に携わる者としての自覚と規範意識を持ち、生徒への深い愛情に基づく教育を実践するとともに、同僚と協働することができる教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>〈生徒〉適切な友人関係の構築、自分の居場所の確保、わかりやすい授業、資格取得、卒業及び希望進路の実現</p> <p>〈保護者〉基本的な生活習慣の確立、学校生活の充実、希望進路の実現、家庭との密接な連携</p> <p>〈中学校〉不登校等の多様な課題を持つ生徒の受け入れ</p> <p>〈地域〉生徒の規範意識の向上、生涯教育の提供</p> <p>〈就労・進学先〉挨拶等の社会性の育成、コミュニケーション能力の向上、基礎学力の定着、資格取得</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p>〈保護者、中学校、地域、就労・進学先〉同上</p> <p>〈スクールカウンセラー・特別支援教育関係者・行政等生徒支援関係者〉生徒の居場所の確保、生徒一人ひとりの特質を踏まえた対応</p>	<p>〈保護者〉基本的な生活習慣の確立、日常生活に関する情報の把握及び共有</p> <p>〈中学校〉学校生活に関する情報提供、生徒に対する連携したかかわり</p> <p>〈スクールカウンセラー・特別支援教育関係者・行政等生徒支援関係者〉専門分野における生徒への直接的な、教職員への間接的な支援</p> <p>〈地域〉外部教育力としての専門的な知識・技能の提供、生徒の見守り</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<p>○ICTの活用については、教員や教科によってまだまだ偏りがあるようである。GIGAスクールサポーター等の人材の積極的な活用、教員間で授業実践を相互に参観、中学校の授業を参考にするなど工夫が必要。</p> <p>○通級指導は本校の重要な教育活動であるので、全教職員が協力して指導に当たり、生徒が個々の課題に取り組み、コミュニケーション能力をつけ、社会的自立に必要な基本的スキルの向上を図る支援をしていただくようお願いしたい。</p> <p>○体育祭の時期を工夫し、種目もレクリエーションを取り入れ楽しく過ごせるようにし、行事を面白いし楽しいと感じるようなイベントとして開催できるようにしてほしい。</p> <p>○30日以上欠席した生徒に対し、専門的な指導を受けたことにより効果があるなら、より一層取り組みを強めていってもらいたい。また、スクールカウンセラーやソーシャルワーカーなどの専門スタッフにも対応してもらい、家庭状況や経済の不安、心の問題など多面的にサポートする方法を充実してほしい。</p> <p>○在校生のアンケートで、授業に欠席することがあるなど、注意しなければならない回答が多く出ている。担任や教科担当で気になる生徒がいれば情報を共有しあって生徒が学校を続けられるよう十分なサポートをお願いしたい。</p> <p>○早期からの就労・就職支援は行われているが、進路の決まらない生徒がいる。手厚いフォローを期待したい。</p> <p>○職員ひとり当たりの月平均時間外労働日数は2.6時間であり、年間休暇取得日数は16.8日となっているので、これからも先生方が生き生きと働ける学校であってほしい。</p>	

(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ICTの活用を核に、授業規律の確保・徹底も含め「わかりやすい」授業の構築（授業改善）を推進し、生徒の学習意欲をさらに引き出す授業づくり、また、指導と評価を一体化し、カリキュラム・マネジメントの充実に取り組む必要がある。 ○特別な支援・配慮を必要とする多様な生徒、特に、コミュニケーション能力や社会的自立に必要な基本的スキルに課題のある生徒が数多く入学していることから、個の課題をふまえたきめ細かな対応の充実に取り組む必要がある。また、通級による指導について、生徒の課題の改善に繋がるよう、環境整備や教職員のスキルアップ等、円滑で効果的な指導の確立に取り組む必要がある。
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ○信頼される学校・教職員であるため、教職員一人ひとりがコンプライアンスを遵守するとともに、三部制で複雑な勤務体系ではあるが、学校全体で風通しのよい活力ある組織づくりに取り組む必要がある。 ○体罰やわいせつ行為、ハラスメント等の不祥事の根絶及び未然防止に組織的に取り組む必要がある。 ○生徒数の減少に対応するため、普通科（午前・午後の部）の特色化やものづくり工学科（夜間部）の魅力化等を推進する必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動【カリキュラム・ポリシー】	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の主体的・対話的で深い学びを引き出すため、「わかりやすい授業」の構築（授業改善）を推進する。特にICTの活用により、生徒が主体的に取り組める授業の構築を目指すとともに、基礎学力のさらなる定着を図る。 ○生徒の多様な実態をふまえ、特別支援教育やキャリア教育等の効果的な生徒支援を推進する。特に、教職員間で生徒に関する情報を丁寧に共有したうえで、あらゆる機会をとらえて生徒の自己肯定感や社会的自立に必要なコミュニケーション能力の育成を図る。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るため、また、特別支援教育のさらなる充実を図るため、授業改善やICTの活用、新学習指導要領への適切な対応、通級による指導のあり方の研究等により、教職員の資質向上を推進する。 ○会議時間の短縮や変形労働時間制の活用等により、総勤務時間を縮減し、働きやすい環境の整備を推進する。 ○信頼される学校・教職員であるため、教職員一人ひとりが生徒に対する深い愛情と教育に対する使命感・責任感を持ち、生徒と向き合いながら日々の教育活動を行うことができるよう、コンプライアンスを遵守するとともに、風通しの良い活力ある組織づくりを推進する。

4 求める生徒の姿

入学時に期待される生徒の姿【アドミッション・ポリシー】	<ul style="list-style-type: none"> ○定時制高校で学ぶ意欲をもち、社会に出るための力を身につけようとする生徒。 ○学校生活の中で他者を尊重しつつ、自分のペースで学び続けることができる生徒。 ○本校における体験や取組を通して、新たな自分を見つけることに挑戦しようとする生徒。
-----------------------------	--

5 本年度の行動計画と評価

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

(1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
基礎学力の定着（学習指導の充実）	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒のまなびに向かう姿勢を尊重し、すべての生徒がまなびに取り組むための環境を整える。 ○ICTの活用を推進し、「わかりやすい」授業を構築（授業改善）することにより、生徒の学習意欲の向上を図る。 【活動指標】 ○学校生活（授業評価）に関する生徒アンケートの実施が年1回以上 【成果指標】 ○「授業に対する興味・関心」「内容理解」「満足度」の高い割合が90%以上 ○ICTの活用により、学習指導の効果をあげられている教員の割合が90%以上 		※ ◎
個に応じた生徒支援	<ul style="list-style-type: none"> ○通級による指導をはじめとする特別支援教育を推進し、コミュニケーション能力や社会的自立に必要な基本的スキルの向上を図る。 ○生徒指導、命を大切にする教育やいじめを許さない教育、人権教育、生徒会行事等を推進し、生命尊重の精神や自己肯定感の育成、人間関係の構築（仲間づくり）を図る。 ○教育相談や保健指導、図書館教育等を推進し、心身の豊かな成長を図る。 【活動指標】 		◎ ※

	<ul style="list-style-type: none"> ○面談週間や声かけ週間等の生徒支援を重点的に 行う機会の設定が年6回以上 【成果指標】 ○自ら挨拶できる生徒の割合が90%以上 ○各行事の参加率、満足度が高い生徒の割合が それぞれ90%以上 ○30日以上欠席した生徒のうち、養護教諭、ス クールカウンセラー、相談員等による専門的な指 導・相談を受けた割合が30%以上 		
キャリア教育 の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○進路指導を中心とする教育活動全体におけるキ ャリア教育を推進し、自らの進路や生き方を主 体的に考える力の育成を図る。 ○早期からの就労・就職支援、またものづくり工 学科の専門性を生かした職業教育を推進し、生 徒一人ひとりの適性に応じた進路実現を図る。 ○いせ若者就業サポートステーション等、就職に かかる各種外部機関との連携強化をはかる。 【活動指標】 ○進路だよりの発行及び進路講話の開催が年3回 以上 ○アルバイトやインターンシップ等の就労経験を 随時奨励・創出 【成果指標】 ○就労経験ができた生徒の割合が50%以上 		※
改善課題			

(2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
資質向上の 取組	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の基礎学力の定着を図ることができるよ う、ICTの活用に係る自己研鑽に努め、「わ かりやすい」授業を構築（授業改善）する。 ○通級による指導をはじめとする特別支援教育、 また、その他の教育等に係る自己研鑽に努め、 個に応じた生徒支援を図る。 【活動指標】 ○通級関係者会議や現職教育等の校内研修機会の 設定が年10回以上、また、校内外の研修機会へ の参加が教職員1人当たり年1回以上 ○ICTに係る研修等の機会の設定が学期に1回 以上 【成果指標】 ○校内外の自主研修に複数回参加した教員の割合 が100% 		※◎ ※◎
信頼される 学校・教職員 であるための 行動	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員一人ひとりが不祥事を自分事としてとら え、その根絶に率先して取り組み、公教育への 信頼の回復・向上を図る。 ○教職員一人ひとりが生き生きと活躍できる（チ ームワークの向上と意欲の増進が可能な）職場 環境を整備するとともに、保護者・地域住民・ 関係諸機関等と連携し、信頼される組織の構築 （学校づくり）を図る。 【活動指標】 ○学校信頼向上委員会の開催が年3回以上、また、 コンプライアンスを遵守するための研修等の機 会が年6回（各学期2回）以上 		※◎

	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員満足度アンケートの実施が年1回以上、また、管理職との対話が教職員1人当たり年3回以上 ○保護者や中学校等へ随時情報共有、また、特長ある取組についての中学校や報道機関等へ適時情報提供 【成果指標】 ○ストレスチェック集団分析結果の当該部署の「健康リスク」が県立学校全体平均を下回る 		
働きやすい職場環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○業務の見直しや削減等の勤務管理を推進し、総勤務時間の縮減を図る。 ○時間割に学年、分掌等の会議の時間を設定し、連携及び情報共有の強化を図る。 【活動指標】 ○設定した日の定時に退校できた教職員の割合が95%以上 ○予定通り（週1回以上の）休養日を実施できた部活動の割合が100% ○放課後等に開催して60分以内に終了した会議の割合が100% 【成果指標】 ○年360時間を超える時間外労働者数が0人 ○月45時間を超える時間外労働者の延べ人数が0人 ○1人当たりの月平均時間外労働が3.5時間以下 ○1人当たりの年間休暇取得日数が15日以上 		※
改善課題			

6 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	
---------------------	--

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	
学校運営についての改善策	